

窓から宍道湖を臨み、広がる青空。

緑に恵まれた玉湯の丘で期待に応える病院を目指します。

No. 49
2017年 秋号

JCHO玉造病院広報誌

たまつくり

Now ナウ



人工関節手術10,000例記念セレモニー

CONTENTS

最新医療レポート	2・3
コツコツ通信／今月のレシピ	4
臨床実習生を受け入れています／釣りごろ釣られごろ	5
INFORMATION	6

人工関節手術件数 10,055件 (9月15日現在)

理 念

私たちは心温まる医療を実践します。

基本方針

1. 患者さんの立場に立った安心・安全な医療を行います。
2. 医療人として責任を自覚し、高度で良質な医療を行います。
3. 整形外科とリハビリテーションの基幹病院として、患者さんの身体機能の回復・維持、生活の質の改善を支援します。
4. 地域の医療・介護・福祉機関と連携し、地域に根ざした医療の充実に努めます。
5. 人材育成を進め、働きがいのある病院づくりに努めます。



Japan Community Health care Organization JCHO / ジェイコー
独立行政法人地域医療機能推進機構

玉造病院

人工関節手術 一万例へのあゆみ



人工関節センター長
小谷 博信

当院では、人工関節手術を1973年（昭和48年）に全国に先駆けて、中四国で最初となる無菌手術室（クリーンルーム）を設置し、人工股関節置換術を開始しました。当時は、人工関節手術は、珍しく、新しい手術でした。その後、人工膝関節置換術も加わり、人工関節手術の成績の向上と人口の高齢化と共に急激に増加してきました。

手術の増加に伴い、2003年9月に第2無菌手術室を増設して対応しました。その後も増え続ける人工関節手術に対応するために、2005年に玉造人工関節センターを開設し、人工関節手術をより専門的な立場から充実を図り、外来から術前の身体状態の評価・合併症の対策・手術・リハビリテーション・術後フォローアップ・データ整理などを、病院として一貫した体制を構築して、より充実した治療を提供できるようにしてきました。

人工関節手術は高齢者に対する手術ですので、内科や麻酔科のドクターの協力のもとに内科的合併症や周術期の合併症のリスクを最小限にできるように、相互の協力体制を強化して、より安全に手術ができるようになりました。

2006年3月7日に、当初から数えて人工関節手術が5000例目に達し、2006年4月12日に記念セレモニーを当院外来ロビーにて行いました（図1）。



図1：5,000例記念セレモニー（2006.4.12）

また、人工関節手術の技術向上を目指して、全国の医師を募ってのラーニングも2006年から行ってきており、現在までに全国の多くのドクターやナースが参加されています（医師267名、看護師44名、訓練士9名、事務11名、放射線技師1名）。

その後も人工関節手術が増え続け、2010年4月に第3無菌室を増設しました。

手術後のリハビリテーションも充実させるために、2010年7月から「365日リハビリテーション」を開始し、休日や正月にも連続してリハビリが受けられるようになり、手術予定を、休日を気にせず組めるようになりました。

今回2017年8月8日に大台の10,000例に達しましたので、その日のお二人の患者さんを交えて、記念セレモニーを2017年9月12日に行いました（表紙、図2、3）。

2010年に人工関節センター開設5周年記念として、市民公開講座（歌手「ダ・カーポ」を迎えて「歩けるって幸せ」座談会：松江テルサにて）を行い、2016年には、開設10周年記念の市民公開講座（「膝・股関節でお悩みの方へ」海士町長 山内道雄氏を迎えて：松江テルサにて）を行い、人工関節手術の普及と理解をしていただけるように努めてきました（このお二人は、股関節や膝関

節の手術を受けておられます）。

近年では、人工膝関節手術を年間450-500件行っており、膝関節が約300件、股関節が約150件でその他約10件となっております。

最初の5,000件に達するのに、当初から33年かかっておりますが、次の5,000件は11年で到達したことになります（図3）。

10,000件という数字も大変大きなものですが、これを1例目か数えられる記録があるということが大変貴重なことだと思います。人工関節センターを開設したときに、病歴室で今までの人工関節手術の記録（当院では全部残っていました）をすべて電子化して、1例目から通し番号をつけて管理していますので、数えることが可能になっています。これらデータは、患者さんのフォローアップなどに大変有効に活用させていただいております。

今後も、人工関節手術をより安全に続けていき、患者さんによりよい生活の質（QOL）を提供したいと思います。今までは医療側から見た評価をしていましたが、今度は患者さん側から見た、患者さん自身の評価も、近年から取り入れており、患者さん自身の満足度を高めるような、よりよい医療を目指していきたいと考えております。



図2：マスコミの取材を受ける池田登院長 a と患者さん b



図3：10,000例記念セレモニー（2017.9.12）

臨床実習生を受け入れています

義肢室 義肢装具士 生島 隆弘

義肢室では、義肢装具士を養成する専門学校や大学から臨床実習生を毎年2～3名受け入れています。

実習期間は各学校のカリキュラムや学年によって異なりますが、概ね4～7週間です。

学校は現在、全国で専門学校6校、大学が4校あります。義肢室にくる実習生は広島や兵庫など比較的近隣の学校から多いですが、近年では北海道や新潟からもやってきます。

当院義肢室が、全国の学生たちから臨床実習先として選ばれている大きな理由は全国的にも数少ない「病院内にある義肢室（補装具製作施設）」という特徴があるからです。

通常、補装具は医療施設を外部業者が訪れ製作されています。しかし、当院では義肢室に義肢装具士が職員として勤務しており、一人の患者さんに医師・看護師・セラピスト・義肢装具士等がチームとして携わるので、円滑な情報共有のもと補装具を処方から製作、アフターフォローまで提供することができます。

このように、補装具の知識や技術だけでなくチーム医療の一員としての役割をより身近に深く学ぶことができるところが実習希望先として選ばれているようです。

学生にとっては短い実習期間ではありますが、患者さんや病院関係者の皆様のご協力のもと学んだことが、将来活かされれば嬉しく思います。



釣りごろ釣られごろ

東2階病棟 看護師 吉川 潤奈

3年前に地元島根県へ戻り時間を持て余すことが多く、何か趣味でも作りたいなと思っていたところ、知人に紹介してもらったことをきっかけに釣りをすることになりました。初めは釣れるだけで嬉しく気軽な気持ちで行っていましたが、今ではどれだけ人より多く、いいサイズが釣れるかという思いでいっぱいになり、様々な方から情報を得ながら休みさえあれば県内外を問わず海へ向かうようになりました。いわゆる釣りキチなかもしれません。

ルアーを用いた釣りをしていますが、ルアーの重さ、色、形、竿の動かし方によって釣れたり釣れなかったりします。天候や場所、潮の満ち引きといった条件が違うことも関係してくるので、日々学ぶべきところが沢山あります。日々学習するといった点では看護にも通ずるものがあるのかなと思っています。

釣りを始めて1年も経っていませんが、これからも春夏秋冬釣れる魚が違うため、仕事と趣味を両立し、時間のある限り海へ繰り出し上達できるよう全力で楽しみながら頑張っていこうと思います。



とても充実した研修です!!

上垣医院 理学療法士 松原 宏都

5月より大田市にある上垣医院から研修生としてまいりました、理学療法士の松原宏都です。

10月末までの研修期間でPT・OTの先生の指導のもと勉強させていただいています。

まだまだわからないことも多いですがこの研修を通して成長した姿を見せられるように頑張ります。

今回の研修にあたり、様々な方のご協力がありました。池田院長や上垣賢先生、事務長、権藤士長には学ぶ場を作って頂きました。そのほかにもたくさんの方のご協力のもとでこの研修を受けることができています。その環境に感謝し毎日を過ごしていきたいと思います。

玉造病院で学んだ知識や技術を身につけ、良質な医療を提供出来るように努力していきますので今後とも宜しくお願いします。



あなたは“たまちゃん”を知っていますか？

リハビリテーション室 理学療法士 青木 裕也

こんにちは。玉造病院レガッタ部“たまちゃん”です。7月29日、30日に大橋川特設コースで開催された第34回松江市民レガッタに出場しました。当院からは男子2クルー、男女混合2クルーが参加し、好天にも恵まれ白熱した大会となりました。大会結果は、男子Drチームが決勝まであと一歩と迫りましたが、惜しくも準決勝敗退となりました。年々、力をつけているたまちゃんですが、来年は決勝の舞台で活躍できることを目標に日々練習に励んでいきたいと思っています。応援をよろしくお願いします!



朝夕が涼しくなり、目に映るものも秋色に変わってきました。秋になると俄然わいてくるのが食欲ですが、理由は夏から秋になると、日照時間が減少してセロトニンの分泌が低下するからとか、セロトニンは精神の安定を助け睡眠や体温調整に関わっているそうで、日光に当たる以外に食事でセロトニンを増やし、精神の安定を保とうとするからではないかと言われています。過食はダメですが、日々の食事はしっかり取る事がやはり大切ですね。

ホームページから
たまつくりNOWがダウンロードできます。
<http://tamahosp.jp>
■編集・発行責任者 院長/池田 登
■広報/川合 準



患者さんの権利

あなたは、人種・国籍・性別・年齢・宗教、その他の個人的な背景に拘らず、差別なしに適切な医療を受ける権利を持ちます。
あなたは、担当の医師や病院を自由に選択できる権利を持ち、またどの治療段階においても、他の医師の意見を求める権利を持ちます。
あなたは、すべての医療上の記録を知る権利を持ちます。また、医師から症状について十分な説明を受ける権利を持ち、自分自身に関わる治療方針を自由に決定できる権利を持ちます。
あなたのプライバシーと個人情報は完全に保護いたします。

JCHO玉造病院
〒699-0293 島根県松江市玉湯町湯町1-2
TEL.0852-62-1560